

たまねぎレポート【第386号】



令和元年12月26日

阪南青果株式会社

社内報

11月の天候は、北・西日本と東日本の日本海側では降水量がかなり少なく、日照時間がかかなり多かった。東・西日本と沖縄・奄美では気温が高く、沖縄・奄美では月後半は曇りや雨の日が多かった。12月なっても平年に比べ温暖な日が多い。

気象庁の1月～3月の3か月予報では、この期間の平均気温は、北日本で平年並み亦は高い確率ともに40%。東・西日本と沖縄・奄美で高い確率50%。降水（降雪）量は東日本の日本海側で平年並み亦は少ない確率ともに40%。東・西日本の日本海側で少ない確率50%。月別予報は次の通り。

1月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多い。東日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪亦は雨の日が少ない。西日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨亦は雪の日が多い。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多く、東・西日本の太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ない。沖

縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

2月、北日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪の日が少ない。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪亦是雨の日が少ない。北・東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では曇りや雨の日が多い。

3月、北日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雪亦是雨の日が少ない。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本では天気は数日の周期で変わる。太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では平年と同様に曇りや雨の日が多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

11月の建値市場の野菜の販売量は、229,864トン前年比100%、市場別には多少のバラツキがあり、札幌と東京が前年比減、名古屋・大阪本場・福岡が前年比増となっている。平均単価はkg¥219前年比103%で、市況に漸く回復の兆しが見え始めた。市場別で東京が前年比高。名古屋・大阪本場・福岡が前年比安となっている。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比90%、平均単価はkg¥165前年比100%。東京市場の販売量は前年比98%、平均単価はkg¥239前年比107%。名古屋市場の販売量は前年比102%、平均単価はkg¥210前年比98%。大阪本場は前年比104%の販売量で、平均単価はkg¥214前年比96%。福岡市場は前年比109%の販売量で、平均単価はkg¥164前年比97%となっている。

建値市場の11月の玉葱販売量は26,220トン前年比99%、平均単価はkg¥75前年比75%で、依然数量減の価格安となっている。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は3,949トン前年比84%、平均単価はkg¥65前年比76%。東京市場の販売量は9,164トン前年比93%、平均単価

はkg ¥79前年比74%。名古屋市場の販売量は6,248トン前年比103%、平均単価はkg ¥74前年比78%。大阪本場の販売量は4,150トン前年比119%、平均単価はkg ¥76前年比70%。福岡市場の販売量は2,709トン前年比112%、平均単価はkg ¥79前年比78%となっている。いずれの市場も、平均単価は前年比安となっており、販売環境に好転の兆しは未だ見えていない。

日本農業新聞社の調べでは、主要7地区の大手荷受7社の11月の主要野菜14品目の販売量は、102,124トン前年比1%増、平均単価はkg ¥127前年比1%高。久振りに数量増の価格高に転じた。販売量が前年比増の品目は、ニンジンが前年比13%増、ジャガイモが10%増、ハクサイが6%増など7品目。前年比減の品目は、ホウレンソウが前年比30%減、ナスが14%減、トマトが12%減など7品目。価格が前年比高であった品目は、ホレンソウがkg ¥636で前年比57%高、レタスがkg ¥186で56%高、ダイコンがkg ¥79で39%高など8品目。前年比安の品目は、ニンジンがkg ¥91で前年比38%安、ジャガイモがkg ¥73で25%安、タマネギは4%減でkg ¥63で22%安となっている。

東京都中央卸売市場の11月の野菜の入荷は、124,404トン前年比98%（前月比92%）。平均単価はkg ¥239前年比107%（前月比110%）となっている。安値が続いた野菜市況に回復の兆しが見え始めた。品目で入荷が前年比増の品目は、バレイショが前年比121%、サトイモが111%、ハクサイ・ニンジン・ピーマンが104%など7品目。入荷が前年比減の品目は、ホウレンソウが前年比58%、トマトが82%、ダイコンが85%など8品目。販売単価が前年比高の品目はホウレンソウがkg ¥723前年比199%、レタスがkg ¥253で175%、ダイコンがkg ¥97で164%など9品目。前年比安の品目は、ニンジンがkg ¥117で前年比66%、バレイショがkg ¥89で73%、タマネギがkg ¥79で74%など6品目となっている。

東京都中央卸売市場の11月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	124,404	98.0	92.2	239	107.1	110.1
た ま ね ぎ	9,164	93.3	93.9	79	73.9	97.5
は く さ い	15,639	104.3	89.3	67	132.7	117.5
キ ャ ベ ツ	15,307	99.8	87.1	79	94.5	106.8
だ い こ ん	10,886	84.6	97.6	97	163.9	119.8
ば れ い し ょ	7,536	121.4	98.5	89	73.4	96.7
に ん じ ん	7,459	103.9	89.8	117	66.2	108.3
レ タ ス	7,075	94.3	86.9	253	175.2	171.0
ね ぎ	5,256	99.8	100.5	321	102.3	97.6
き ゆ う り	4,884	100.3	79.8	388	116.8	124.8
ト マ ト	4,115	81.9	69.0	538	115.9	118.8
か ぼ ち ゃ	3,162	151.4	94.3	143	50.4	102.1
れ ん こ ん	957	105.8	108.3	404	106.5	108.3
な が い も	834	119.8	103.9	294	75.9	96.1
に ん に く	315	114.8	114.6	739	84.1	100.4

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の11月の玉葱の入荷量は9,164トン前年比93%
(前月比94%)。北海物主力で北海物の入荷は、8,811トン前年比95%、占
有率は96%前年比1%ポイントアップ。中国物は241トンの入荷で前年比5

2%、占有率は3%前年比2ポイントダウン。佐賀物は51トンの入荷で前年比180%、占有率1%で前年比0.3ポイントアップ。総平均単価はkg ¥79前年比74%(前月比98%)。産地別では、北海物はkg ¥78前年比73%。中国物はkg ¥86前年比104%。佐賀物(秋冬採り)はkg ¥202前年比66%、前月に続き厳しい販売環境が続いた。

12月の需要期に入ってから、北海物のお荷は前年並みのお荷だが、荷動き鈍く荷凭れ傾向が改善されず、相場的には価格維持が精々の展開となった。なかには、在庫整理にL大 ¥1,100まで値下げ販売を余儀なくされた荷受けもあり、仕切値と販売値の逆鞘現象が続いた。近隣市場も売れ行き不振で、転売を打診されるも受ける余裕全くなし。佐賀の冬採りは不作で入荷量は前年比60%前後と少なく、球流れは小振りで、価格は前年並みかやや安値で推移している。月半ばに北海道産地から、北見は前進出荷で出荷進捗率は計画通り、岩見沢管内は生産量の下方修正が報告された。需要に反し産地の強気姿勢が崩れず、年末に向けて出荷調整の意向が伝えられている。唯、JAのなかには、在庫増から価格よりも量的販売を望む声も多い。市場サイドでは年末向け手当買いを始めた店舗もあるが、此の先、仲卸段階では正月商材重点の取引となり、玉葱の販売は減少する。今年市場関係筋に在庫が多く、年明けも厳しい販売環境が続くとの予想が大勢を占めている。1日~20日の玉葱の販売量は6,256トン前年比97%、平均単価はkg ¥78前年比66%。産地別では北海物の販売量は6,018トン前年比100%、平均単価はkg ¥76前年比64%。中国物は155トン前年比48%、平均単価はkg ¥94前年比115%。佐賀物は37トン前年比59%、平均単価はkg ¥281前年比98%となっている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の11月の玉葱販売量は、6,248トン前年比103%

(前月比110%)で前年比、前月比とも増となった。主力は北海物で、販売量は6,192トン前年比103%、占有率は99%で前年と同じ。兵庫物の販売量は199トン前年比108%。中国物は14トン前年比50%となっている。総平均単価はkg74前年比78%(前月比99%)で、前年比前月比とも安値となっている。産地別では、北海物はkg¥74前年比78%、兵庫物はkg¥159前年比84%、中国物はkg¥77前年比103%となっている。

12月に入ってから、北海物の入荷は順調で、需要は好転せず、在庫の増加傾向が続いた。市場は荷凭れ状況が続き、売値と仕切値が逆ザヤとなるなか、大手JAからは、年明けからの仕切り値上げ通告があり、頭を痛めている。兵庫物は受注販売で量的には少ない。今週は年末需要期を迎えたものの、例年に比べ注文が少なく、相場は保合だが気配は弱い。現状は価格維持が精々で在庫は増加している。玉葱と馬鈴薯が在庫増で置場は満杯。年明けからは、静岡の早生物が入荷し、販売環境は更に厳しくなる。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の11月の玉葱の販売量は、4,150トン前年比119%(前月比113%)で前年比、前月比ともに増であった。主力の北海物は、3,440トン前年比115%、占有率83%前年比2ポイントダウン。兵庫の冷蔵物は669トン前年比131%、占有率は16%で前年1ポイントアップ。和歌山物は31トン前年は入荷なし。占有率1%。総平均単価はkg¥76前年比70%。産地別では、北海物はkg¥71前年比70%。兵庫物はkg¥103前年比68%。和歌山物はkg¥59で前年販売なし。

12月に入ってから北海物の入荷は順調で、荷動きは好転せず荷凭れ状態が続いた。兵庫物も同様の動きだが、2Lの比率が高く2Lは引き合いが鈍く、割安で、L・Mはそれなりの動きで強含みで安値が少なくなった。北海物も年末需

要を控え、2L・L大の引き合いは回復気配となったが、Lは引き合い弱く売れ残りが発生した。本年の上場最終週を迎え、兵庫物は駆け込み需要等から、Lが値上がりして10kg高値¥1,500を付けたが、2L・Mは弱気配となった。1日～20日の販売量は2,704トン前年比104%、平均単価はkg¥73前年比61%。産地別では、北海物は2,239トン前年比101%、単価はkg¥67前年比59%。兵庫物は453トン前年比127%、単価はkg¥103前年比65%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の11月の玉葱販売量は、2,709トン前年比112%（前月比106%）で、前年比、前月比ともに増であった。北海物主力で北海物の販売量は2,421トン前年比118%、占有率は89%前年比4ポイントアップ。中国物が172トン前年比57%、占有率6%前年比7ポイントダウン。愛媛物が45トン前年比246%、占有率2%で1ポイントアップ。総平均単価はkg¥79前年比78%。産地別の平均単価は、北海物がkg¥78で前年比76%、中国物がkg¥80前年比108%。愛媛物はkg¥101前年比54%となっている。

12月に入って、北海物の入荷は増加傾向となったが、他方荷動きは引き続き低迷状態で、極力勉売し在庫減に努めたが労多くして益少なしであった。愛媛の冷蔵物は、隔日の入荷でロットは7～8トン、見栄え良く、球肥大・球締りとも良好で申し分はないが、販売環境が悪く、適正価格で販売出来ず申し訳ない状態。中旬から北海物の入荷は増加傾向となったが、アウトサイダーである転送業者の売り込みが活発で、着値はL大・Lともに¥900～800の投げ売り値で、市場での年末販売環境は更に厳しくなった。年末を控えた需要は低調で荷動きは鈍い。年始売りの手当ても終了したが、コンテナヤードには大量の滞留在庫がある。1日～20日の玉葱販売量は、1,403トン前年比101%、平均

単価はkg ¥81前年比70%で相変わらず厳しい販売環境が続いている。

12月24日(火)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷249トン 弱い

北 海 20kgDB2L ¥1,500~1,400、L大 ¥1,700~1,100、L ¥1,400~1,000、
M 入荷なし

北 海 20kgNT2L ¥1,100~ 900、L大 ¥1,100~ L ¥850 ~ 700、
M ¥500 ~ 400。

【太田市場】 入荷125トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥1,400~1,100、L大 ¥1,400~1,100、L ¥1,200~1,000、
M ¥1,000~ 800。

佐賀(冬採り)5kgDB2L ¥1,300~1,200、L ¥1,500~1,400、M ¥1,200~1,000。

【名古屋北部】 入荷439トン 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥1,400~1,200、L大 ¥1,500~1,300、L ¥1,400~1,100、
M ¥1,200~1,000。

兵 庫10kgDB2L 入荷なし L ¥1,300~1,200、 M ¥1,200~1,100。

【大阪本場】 入荷43トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥1,300~1,100、L大 ¥1,400~1,200、L ¥1,100~1,000、
M ¥1,000~

兵 庫10kgDB2L ¥900 ~ 700、 L ¥1,500~1,200、 M ¥1,000~ 800。

【福岡市場】 入荷 86トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥1,500~1,400、L大 ¥1,600~1,400、L ¥1,500~1,400、
M ¥1,200~1,000。

愛 媛10kgDB2L ¥800 ~ 700、 L ¥1,000~ 800、 M ¥1,000~ 800。

供給(産地)の動き

11月の主要市場の野菜の販売量は前年並み、価格は前年比高に転じ、レタス、キュウリ、トマト等の産地では、需要期の年末年始の市況に多少の期待が持てる様になった。反面バレイショ、タマネギは産地在庫が豊富で、拡販に頭を悩ましている。府県の早生産地は、11～12月の温暖と適雨に恵まれ、初期生育が前進化し作柄良好で、静岡物は新年早々からの出荷で、作付は前年比101%、出荷は1～2月重点で、1月～2月は前年比120%の計画である。長崎物は前年並みの作付だが、生育は前進化して、2月半ばから連続出荷となる予想。輸入物は、中国物は値下がりか予想されるものの、旧正月の関係などから輸入は減少傾向と予想される。

北海道産地

北海物の出荷は折り返し点を通過したが、占有率80%以上の数量を握るホクレンでは、出荷が前進化したことと、岩見沢管内の作柄が予想より小粒で収量減となった原因で、12月以降の生食向けは当初計画比8,000トン減になると修正されている。他方、産地JA、商系、生産者の間では、現在の在庫は、前年に比べかなり多いとの説が大勢を占めている。亦、年内需要は振るわず、市場販売量は前年を下回っており、産地からの出荷量が計画を上回っているとすれば、市場流通外の輸出・直販の増加、流通段階で滞留増が考えられる。いずれにしても、需給が改善されることは、産地関係者も市場関係者も願望するところである。今冬は積雪が少なく、貯蔵物の管理には要注意である。

府県産地

佐賀、定植作業は前年より前進化し、進捗率は年内にほぼ90%と予想されている。此処に来て天候が定まらず、圃場の乾燥状態わるく、作業は中断して

いる。定植の終了した圃場では活着、初期生育は順調である。作付面積は、北海道が4月～7月までずらし販売を計画しているとの情報や、現在の市況安を懸念して、前年比15～20%の減反になると予想されている。近年、特にべト病被害に悩まされ、中晩生の栽培意欲が減退している。

兵庫の主産地淡路島では、冷蔵物の出荷は概ね計画通りで12月24日現在の在庫は、島内産が369,400ケース前年比103%。島外産が262,200ケース前年比115%となっている。冷蔵業者の間では、今年は2Lの比率が高く、2Lの市場価格が格安で採算割れになる。と話している。今年、播種・育苗期の天候が不順で、苗立ちが心配されたが、作付比率の高いターザン種などは予想外に順調で、次シーズンに向けた定植も順調で前進化している。適温・適雨に恵まれ活着も良好である。

輸入動向

11月の輸入は、速報値で19,984トン前年比73%で予想をかなり下回った。主力は中国物で輸入量の98%を占めている。国別では中国が19,513トン前年比82%。アメリカが470トン前年比26%。となっている。

中国、主力は甘粛省で、在庫は産地と輸出業者の貯蔵庫にあり、産地価格は大きく変動した。日本向け価格は産地価格にスライドして変動した。剥き玉20kgC&F価格は12/17着\$12.40、12/24着\$10.20、12/31着\$9.80で週間で変動している。インド産が不作で、バングラデシュ、ネパールへは中国産地からトラック便で輸出されている模様。

1月の市況見通し

北海玉葱の年内販売は、数量減の価格安で産地の生産者を始め、市場も流通業者も小売業者以外は、採算割れに泣かされた。子年はオリンピックなど大きなイ

ベントがあり、人、物、金の動きが活発化すると予想されるが、玉葱市況は1月も好転の材料はなく、厳しい販売環境が続きそうだ。流通の主要ルートである市場関係業者に利益がなく、骨折り損の草臥れ儲けでは、販売意欲が高揚しない。北海、兵庫の冷蔵物は多少の変動はあるも、ボックス相場で12月水準と変わらず、もちあい、年明けは春の訪れを告げる静岡の早生物に順次関心が移りそうだ。(了)